

# 意欲ある生活と生活不活発病

ー趣味を通じてー

学籍番号 17 cc 14

学生氏名 志村拓也

## I. はじめに

私が今回実習させていただいた介護老人保健施設は、介護を必要とする高齢者の自立を支援し、家庭への復帰を目指すために、医師による医学的管理の下、看護・介護といったケアはもとより、作業療法士や理学療法士等によるリハビリテーション、また、栄養管理・食事・入浴などの日常サービスまで併せて提供する施設です。私が担当させて頂いたA様は入所して一ヶ月でリハビリが多くリハビリ中心の生活になっておりどのような介護過程が展開できるのかと思いA様を選びました。

## II. 実習先種別・実習期間

実習先種別：介護老人保健施設

実習期間：2018年6月25日～2018年7月27日（23日間）

## III. 受け持ち利用者の紹介

氏名：A様 性別：男性 年齢：90歳代

介護が必要になった主な疾患・障害：心原性脳梗塞による軽度の右片麻痺

### ADL

移動：右片麻痺あり歩行可能で見守りが必要、転倒経験なし。

食事：常食で自力摂取。

排泄：自力排泄で尿意便意あり夜はポータブルトイレ使用リハビリパンツを使用。

コミュニケーション：構音障害、言語障害あり 意思疎通問題有り 言葉の出にくさ有り。

## IV. 介護の実際

### 1. 情報の解釈・関連づけ・統合

- ① リハビリが多く機能訓練と言葉の訓練を行っている。また一日の過ごし方がリハビリ中心の生活でフロアでは現在趣味などは行っていない。本人の思いとしては、カメラが好き写真撮影したいという思いからそれに関する活動をすることで本人の希望に沿った生活につながると考える。
- ② 現在施設ではリハビリ活動を決められた時間で行っている。そのため決められた時間以外で生活の場である食堂で活動を増やすことで更に上肢のADLの維持・向上につながると考える

### 2. 介護上の課題：

- ① 活動を行い本人の希望に沿った生活を送る必要がある。
- ② リハビリ活動以外に食堂で上肢のリハビリを行い ADL の維持・向上を図る必要がある。

### 3. 介護計画

長期目標：本人の希望に沿った生活を送ることが出来る

- ① 短期目標：本人の趣味活動を行う
- ② 短期目標：リハビリ活動以外に上肢のリハビリ活動をする

具体的援助内容

以下からは、短期目標②について報告する

ジグソーパズルを用意しジグソーパズルに張る写真を十枚ほど持ってくる

体調の確認を行いジグソーパズルの製作をする

### 4. 実施及び結果

7月14日

実施内容の説明を行い、体調を確認する。三枚のジグソーパズルに張る写真選びを A 様に行っていただいた。A 様が写真にのりを塗りジグソーパズルに張る作業も慎重にされていた。ジグソーパズルを完成させ、出来具合を A 様に確認してもらった。

7月17日

完成したジグソーパズル三枚を A 様に渡して実際に行ってもらった。行ってピースがどこに入るか分かっていた様子だったがなかなかピースがはまらないことがあった。ピースをはめるのに指の細かい作業が必要なので上肢のリハビリは行えたのではないかと感じた。

### V. 考察

A 様は日々作業療法士の方とリハビリを行っているが歩行訓練と上肢の訓練を行っているが右腕が動かしにくいと A 様がよく言っていたので上肢のリハビリをフロアで楽しく行うことを目標にした。今回の目標である「リハビリ活動以外に上肢のリハビリ活動をする」ことは、ジグソーパズルの製作し実際に行い達成できたと考える。長期目標に関しては本人の希望に沿った生活を送ることが出来るではおおむね出来たと考える、A 様は意欲的で真面目な性格だったがもし本人の希望が「何もしたくない」や「ベッドに居たい」などの希望であったらなぜそのような希望になったか考え行動しなくてはならないその中で生活不活発病<sup>1)</sup>と言うものがあり動かないと動けなくなるということから本人の意欲につながるような支援は必要であると考ええる。

### VI. おわりに

今回は介護老人保健施設に実習させていただき A 様と出会い介護計画を立て実施して趣味から意欲の引き出し方を学びました。A 様を中心に介護職員、看護師、言語聴覚士、作業療法士などさまざまな職種が関わっており他職種の重要性を感じた。

### 参考文献

- 1) 大川弥生 (2013) 「動かない」と人は病む 生活不活発病とは何か 講談社 142-147